

二〇一〇年十一月

平城宮発掘調査出土木簡概報
(四)

奈良文化財研究所



5



32



39



37



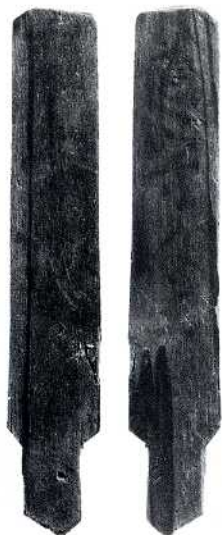
3



13



35



7



12



9



33



34



27



41



26



22



18



124



240



246



159



105



245



250



60



46



168



42



82

この概報には、先に公開した『平城宮発掘調査出土木簡概報（三十九）』（二〇〇九年十一月刊）以後に平城宮跡から出土した木簡のうち主要なもの、及び新たな調査によって積文を補訂すべきことが判明したものを収録する。

一、木簡の出土地点と状況

第四二九・四四〇次調査（6AFF区）

（二〇〇八年一月～四月、二〇〇八年二月～二〇〇九年二月）

平城宮第二次大極殿院・東区朝堂院・朝集殿院の東側には、南北に大きく四区画の官衙ブロックが連なり、東方官衙と呼んでいる。

この各官衙ブロックについて、六m幅のトレンチを東西方向と南北方向に設け、遺跡の概要を把握するための発掘調査を北から順に進めており、第四二九次調査はその第二年次にあたる。調査面積は、計一三一四㎡である。

調査区東側では、密度の高い掘立柱建物群を検出したが、トレンチ調査であるため、全体的な配置や遺構変遷を確定するには至っていない。その中で、調査区南部の官衙ブロック南辺に近い部分で、大規模な廃棄土坑SK一九一八九の東端部分を検出し、多量の削屑を含む木屑層の存在を確認したため、遺構の全容を把握した上で、遺物の取り上げを図るべく実施したのが第四四〇次調査である。調査面積は、一部第四二九次調査と重複させた計二五五㎡である。

木簡は、第四二九次調査では計二四八五九点（うち削屑二四〇七六点）出土した。南北溝SD二七〇〇、土坑SK一九一八九、南北トレンチ南端の東西溝SD一九一九三（釈読できるものはない）、その付近の土坑SK一九二〇三から出土した。このうち、南北溝SD二七〇〇と、土坑SK一九一八九の一部の木簡については、木簡概報三十九で既に報告している。今回は第四二九次調査出土分を主体とする土坑SK一九一八九と土坑SK一九二〇三を報告する。

土坑SK一九一八九 東西約一m南北約七mの規模の土坑で、深さは約一m、壁は比較的直に立ち上がる。東方向へ二回の拡張を経て前述の規模になったとみられる。レンズ状に堆積する木屑層は分厚いところでは厚さ五〇cmにも達する。土坑上部の輪郭部分には炭層が廻っており、これは木屑層が次第に炭層に遷移し、土坑の壁面に沿って立ち上がる様相を呈する。このことから、この土坑は単なる廃棄土坑ではなく、平城宮では初めての焼却土坑の可能性が高い。周辺は一時期ゴミ処理場として機能していたとみられ、SK一九一八九の西にも同様の焼却土坑がさらにいくつか点在する（但し、いずれも調査区内では完結しないため、掘り下げは行わず、遺物の取り上げは将来の全面調査に委ねることとした）。

SK一九一八九の木屑層からは木簡をはじめ、檜扇、杓子、サイコロなどのさまざまな木製品、平城宮IVを中心とする時期の土器、瓦、種子など、多種多様の遺物が出土した。また、削屑も多量に含

4

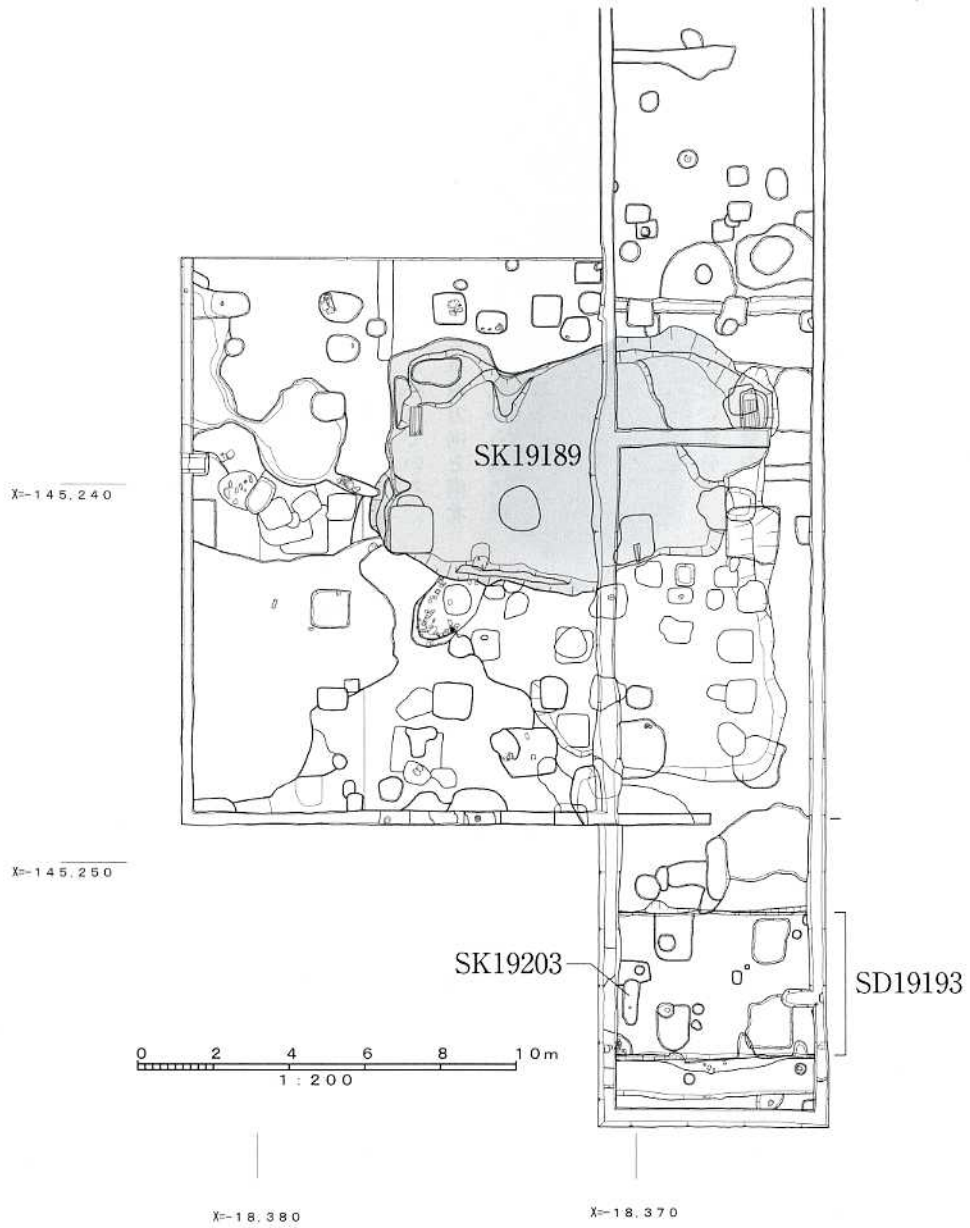


図1 第429・440次調査遺構平面図 1:200

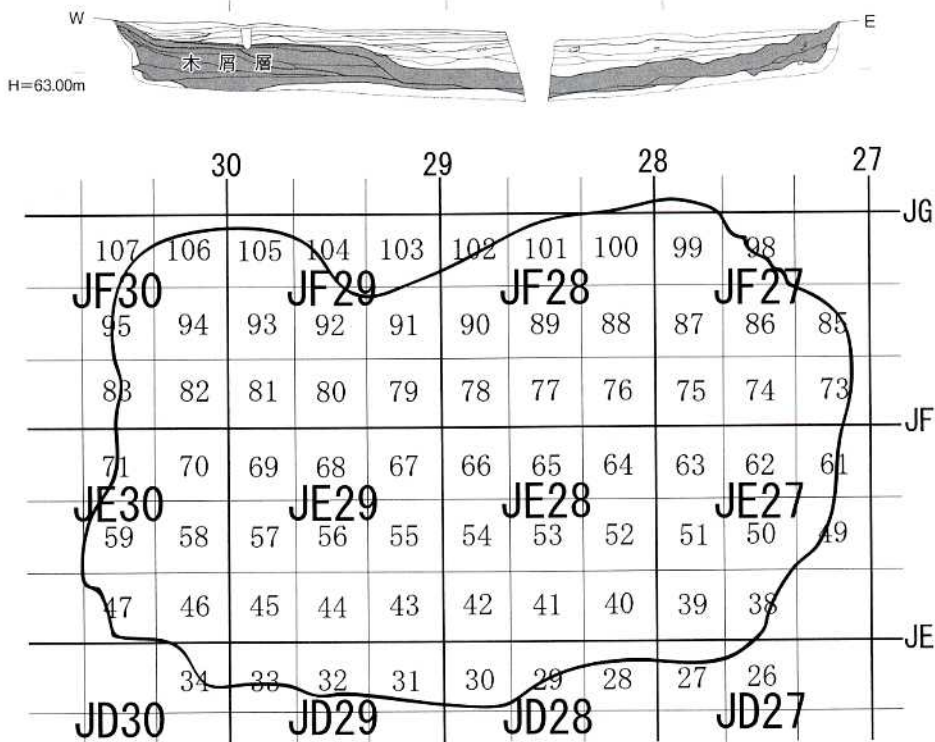


図2 土坑SK19189断面図(JFライン東西畦 北面反転)(上)と地区割図(下)

まれているため、埋土は全て土ごと持ち帰り、整理室で遺物の洗い出しを進めている。埋土は遺物整理用コンテナで約二八〇〇箱にも及び、洗浄だけで数年を要する。四二九次調査分ではコンテナ約一五〇箱を持ち帰り、出土点数は二四一五七点(うち削屑二三四三七点)である。SK一九一八九の出土点数は最終的には十万点を超え、これまでに平城宮跡で検出された木簡群を遙かに上回る規模の木簡群になるとみられる。洗浄で出土した木簡については、今後順次報告していく予定である。

溝SD一九一九三 トレンチ南端に位置する東西方向の溝。幅は約四m、深さは四〇cmである。木質遺物や土器片が多い。東西の勾配はほとんどなく水が流れた痕跡は明瞭でない。木簡は四八点(うち削屑四六點)出土した。いずれも釈読できない。

土坑SK一九二〇三 トレンチ西端に位置する、南北一m、東西三五cm、深さ一〇cmの土坑。SD一九一九三を完掘した後に検出した。木簡は二六七点(うち削屑二六四點)出土した。

その他の詳細については、『奈良文化財研究所紀要二〇〇九・二〇一〇』を参照されたい。

二、凡例

(一) 木簡は、内容により、文書、付札、その他の順に排列するの原則とし、便宜的に通し番号を付した。

(二) 土坑SK一九一八九出土木簡は削屑が極めて多いため、次のような基準で収録することにした。

① 四字以上（疑問の残る文字も含む）判読できるものはすべて収録する。

② 判読できる文字が三字以下の場合でも、次に該当するものはできるだけ収録する。

a、文書様式 b、官職名 c、位階 d、人名
e、地名 f、年号・日付 g、その他注目すべきもの

(三) 釈文の漢字は、概ね現行常用字体に改めたが、「龍」「廣」「實」「證」「嶋」などについては右の字体を使用した。

(四) 釈文に加えた符号は次の通りである。

・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

o 木簡の上端もしくは下端に、孔が穿たれていることを示す。

… 同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一字以上が不明なことを示す。

… 木目と直交する方向の刻線が施されていることを示す。

□ □ □ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□ □ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□ □ 記載内容から、上または下に一字以上の文字を推定できるもの。但し、削屑については煩雑になるので、この記号は省略した。

■ 抹消により判読が困難なもの。

々々 抹消部分の字画が明らかな場合に限り、原字の左傍に付した。

〔X〕 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所
の左傍に・を付し、原字を上のを領で右傍に示す。

「」 異筆、追筆。

「」 合点。

〔 〕 校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

() 右以外の校訂註、及び説明註。

カ 編者が加えた註で、疑問が残るもの。

マ、 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(五) 釈文下の上段のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さを示す（単位はmm）。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量
を括弧付きで示した。なお、長さ・幅は木簡の文字の方向に
よる。削屑については、法量の表記を省略した。

(六) 釈文下の中段に、現在の遺存の形態を示す型式番号を記し

た。型式番号は次の通りで、四桁の数字を用いているが、本概報では時代を示す千の位を省き、下三桁で表した。なお、幅とは、木簡を木目方向に置いた時の上下両端をいう。

6011型式 長方形の材のもの。

6015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6011・6015・6032・6041・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。

6032型式 長方形の材の一端に左右に切り込みを入れたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031・6032・6033・6043型式のいずれかと推定される。

6041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。

6043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。

6049型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6041・6043型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6033・6051型式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。()内に製品名を註記した。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6081型式 折損・割截・腐蝕その他によって、原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。
括弧内の番号は、二次的整形の場合に推定できる原形の型式番号を表す。

(七) 積文下の下段に出土地点を示す小地区名(アルファベット・数字)を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した断片が接続した場合は、地区名を+で併記した。

なお、第四四〇次調査では、土坑SK一九一八九の遺物の取り上げを特に1mのグリッドを設定して行ったため、小地区名の次に「—」で1mグリッド名の数字を併記した(図二参照)。

(八) 積文の出土地点の下に付した「*」印は、口絵写真に写真を掲げた木簡を示す。例えば、「*3」は「図版二」に対応する。

本書の作成は、都城発掘調査部史料研究室が行った。木簡の積読には、渡辺晃宏・馬場基・浅野啓介・桑田訓也があたり、井上幸がこれを補助した。編集に際しては、安居院京子・梅本有貴江・小池綾子・杉本敬子・寺尾淳子・松本大輔・南島真理子・吉岡直人・吉原啓各氏の協力を得た。写真は企画調整部写真室の中村一郎・鎌倉綾の撮影による。本書の編集は浅野が担当した。

- 12 将兼相模守行勲二等道嶋宿
(29+60)・(17)・2 081 JF27 *1
- 13 佐従五位下勲九等粟田朝臣鷹守
(210)・(10)・3 081 JF28 *1
- 14 矢作
(29)・(5)・3 081 JE27
- 15 □日下部大□
(49)・(14)・1 081 JF27
- 16 (記号、以下同シ)
○日下部屋□
・□
(115)・(9)・3 081 JF27
- 17 ○越智
(63)・(9)・2 081 JF27
- 18 ・○小長谷鳥甘
○
〔神人カ〕
○蝮部□
(154)・(16)・3 081 JF27 *2
- 19 ・上毛野
・□
(50)・(9)・2 081 JF27
- 20 物部〔佐美カ〕
□
□
(164)・(15)・6 081 JF27
- 21 □位上系井□
(65)・(38)・9 081 JF27
- 22 □□三人
□□
二方□安
□マ黒人
(167)・(40)・4 081 JF28 *2
- 23 右二人□□
(85)・(5)・4 081 JF28
- 24 [直カ]
□大麻呂
・□首
(69)・18・2 081 JF28
- 25 丈部
(50)・20・7 019 JF28

- 26 久米 (103)・(21)・3 039 JF28 *2 34 鈴守 (48)・(8)・1 081 JF28 *1
- 27 跡沙弥 (53)・14・2 019 JF28 *2 35 二番 118・14・3 051 JF27 *1
- 28
〔長屋カ〕 (110)・(7)・4 019 JF28 36 田一升

〔大神酒人カ〕 (158)・(14)・4 081 JF27
- 29
〔筑カ〕 (60)・(16)・2 081 JF28 37 九廿七 二九十八 一九如九
品遅廣 五八冊 四八冊一 三八廿 (163)・15・2 081 JE27 *1
- 30 (55)・(20)・2 081 JF28 38 是是是
品遅廣 (70)・(13)・3 081 JE28
- 31
〔近カ〕 (79+15)・(25)・2 081 JF27
衛…
右大舎人内
- 32 官人 127・25・7 051 JF27 *1 39
〔弓〕
〔弓カ〕 奈
尋尋 (162)・(15)・11 081 JF28 *1
- 33 春宮實 (66)・(14)・3 039 JF28 *1 40 何有不 (123)・(7)・3 081 JF28

41	□神神神桓	(98)・(15)・5	065 JF28 *2
42	大納言	091 JF27 *2	50 近衛□□
43	大納言□ 〔兼力〕	091 JF28	51 近衛□
44	大弁	091 JF27	52 中衛
45	□行右大□	091 JF28	53 □衛□ 〔府力〕
46	位行大藏卿	091 JF28 *2	54 大将
47	位行大藏	091 JF27	55 □□□□ 〔中将兼力〕
48	□□ 〔春宮力〕	091 JF27	56 □□□佐伯□ 〔少将力〕
49	近衛□ 〔府力〕	091 JF28	57 □少将従
		091 JF27	58 少将
		091 JF28	59 将監□
		091 JF28 *2	60 将曹正六位上
		091 JF27	61 将曹□
		091 JF27	62 府生
		091 JF28	63 府生
		091 JF28	64 府生
		091 JF27	65 □番長 〔人力〕

74	生從七 □ _{位力}	091 JF28				
73	從七位	091 JF28	83	□ _{勲力} 九等	091 JF27	92 占部 091 JF27
72	七位下	091 JF27	82	位上勲九 □	091 JF27 *2	91 海上□ 091 JF28
71	從七	091 JF27	81	勲六等	091 JF28	90 伊勢□ 091 JF27
70	□ _{從力} 七位上勲 □ _{九力}	091 JF27	80	位上勲五等 □□□□	091 JF27	89 伊 _{勢力} □ _{勢力} 091 JF27
69	□ _{正力} 六位□	091 JF27	79	位下	091 JF27	88 出部乙□ 091 JF28
68	從五位 □ _{上力}	091 JF27	78	位上□	091 JF27	87 海部□ 091 JF27
67	□ _{相模} □ _守 □ _{勲力}	091 JF28	77	從	091 JF27	86 飛鳥□ 091 JF27
66	□ _相 □ _{聯力}	091 JF28	76	□ _{馬力} 正八位□	091 JF28	85 飛鳥名□ 091 JF28
			75	正八□	091 JF28	84 □勲十等□ 091 JF27

100	大伴	091 JF27	109	他田□	091 JF27	117	上毛	091 JF27
99	□伴□依 〔船カ〕	091 JF27	108	□他田□ 〔馬カ〕	091 JF28	116	上毛野□	091 JF27
98	□大□□ 〔大伴廣〕	091 JF27	107	他田豊	091 JF27	115	□毛野□ 〔毛野カ〕 □三野	091 JF28
97	大伴秋田	091 JF28	106	他田狩	091 JF27	114	□上毛野大 〔上カ〕	091 JF28
96	大田部□	091 JF27	105	□他カ〕 田依万呂	091 JF28 *2	113	□蚕□	091 JF27
95	凡河□ 〔内カ〕	091 JF28	104	大伴	091 JF28	112	金刺	091 JF28
94	□凡海□	091 JF27	103	大伴□	091 JF28	111	□〔小野カ〕 □□守	091 JF28
93	□〔大カ〕 私	091 JF28	102	大伴□	091 JF28	110	他田	091 JF28

118	上毛	091 JF28	127	日下	091 JF27	136	[位上佐伯宿祢カ] □□□□□□	091 JF27
119	上毛	091 JF28	128	久米赤麻	091 JF28	137	佐伯□	091 JF28
120	上毛□	091 JF28	129	久米若足	091 JF28	138	生酒田	091 JF28
121	上道□	091 JF27	130	久米若	091 JF27	139	猿鳴	091 JF28
122	上道	091 JF28	131	□久米古□ 〔万カ〕	091 JF28	140	穴人	091 JF27
123	公子少□ 〔稻カ〕	091 JF27	132	□米 〔久カ〕	091 JF27	141	穴	091 JF27
124	吉弥侯小角	091 JF28 *2	133	栗栖	091 JF28	142	匠瑳	091 JF28
125	吉弥□ 〔侯カ〕	091 JF28	134	□栖飯 〔栗カ〕	091 JF27	143	田部藤麻呂	091 JF28
126	日下部	091 JF27	135	車持	091 JF27	144	丹波三刀□ 〔良カ〕	091 JF28

153	152	151	150	149	148	147	146	145
丈部	丈部吉人	間人□	間人□	□間人	□部〔錦力〕	中臣	筑紫□□ □□	丹波
091 JF27	091 JF28	091 JF27	091 JF27	091 JF27	091 JF28	091 JF28	091 JF27	091 JF28
161	160	159	158	157	156	155	154	
□原朝□	藤原	〔正力〕 □三位藤原朝… 〔魚名力〕 □□ 091 JF28 *2	秦	□秦	秦	秦 弥 □□ □□	丈部□	
091 JF27	091 JF27	091 JF28 *2	091 JF28	091 JF27	091 JF27	091 JF27	091 JF27	
170	169	168	167	166	165	164	163	162
生部	生部	位上勲□等道嶋 〔11力〕	□勲二等道□ 〔嶋力〕	□木□ 〔雙力〕	原朝	□□藤原朝	藤原	原朝臣
091 JF27	091 JF27	091 JF28 *2	091 JF27	091 JF28	091 JF27	091 JF28	091 JF27	091 JF27

178	東人 □□□□	091 JF27	187	宇万呂	091 JF27	196	〔河内	091 JF27
177	秋田	091 JF28	186	□依万呂	091 JF27	195	□男成	091 JF27
176	□宿祢	091 JF28	185	井五百□ 〔依力〕	091 JF28	194	□部乙人	091 JF27
175	宿祢	091 JF27	184	五百□ 〔依力〕	091 JF28	193	子横刀	091 JF27
174	橘	091 JF27	183	□〔家主〕□	091 JF27	192	□押鳥	091 JF27
173	〔若麻績力〕 □□□	091 JF27	182	□家万呂	091 JF27	191	□大濱	091 JF28
172	神人□	091 JF28	181	□家万呂	091 JF28	190	大濱	091 JF28
171	神清□ 〔成力〕	091 JF28	180	□□部家成	091 JF27	189	大川	091 JF27
			179	安積	091 JF27	188	大魚	091 JF27

197	□河内	091 JF28	206	□部子国	091 JF27	214	太比麻	091 JF27
198	川継	091 JF28	207	嶋甘	091 JF28	215	□部都賀□	091 JF27
199	□清公	091 JF27	208	[嶋足力] □□	091 JF27	216	部都賀□ [佐力]	091 JF27
200	田浄足	091 JF27	209	□ □□万呂 [嶋力]	091 JF27	217	賀佐	091 JF27
201	清人	091 JF28	210	[沙力] □□弥	091 JF27	218	[継力] □守	091 JF27
202	□部清道	091 JF27	211	[部染力] □□□	091 JF27	219	□得足	091 JF27
203	[蔵国力] □□	091 JF27	212	□竹守	091 JF28	220	豊成 □	091 JF27
204	国益	091 JF27	213	種□ [継力]	091 JF27	221	部信足	091 JF27
205	[国力] □益	091 JF28						

222	□□人主	091 JF28	231	南方呂	091 JF27	240	□年七月□	091 JF27 *2
223	広津□	091 JF27	232	□国神足	091 JF27	241	四月	091 JF27
224	本広□	091 JF27	233	□虫万呂	091 JF28	242	□三月	091 JF27
225	広成	091 JF27	234	陸奥	091 JF27	243	五日□	091 JF27
226	□原福万□ □□□	091 JF27	235	□諸足	091 JF27	244	□日請	091 JF27
227	船守	091 JF28	236	□弥万呂	091 JF27	245	右二人夜行	091 JF28 *2
228	〔□〕□□ 球足□□	091 JF27	237	〔山カ〕 □代	091 JF27	246	三人府生	091 JF28 *2
229	麻呂	091 JF27	238	屋守	091 JF27	247	兵守四人	091 JF27
230	□三嶋	091 JF27	239	〔宝亀カ〕 □□	091 JF27	248	□使四纏	091 JF28

249	修理	091 JF28	258	番	091 JF28
250	宿侍	091 JF28 *2	259	噺	091 JF27
251	厨家	091 JF27	260	箇日	091 JF27
252	貞慕□	091 JF28	261	本日□	091 JF27
253	[鈴力] □守	091 JF28	262	十文	091 JF27
254	一番	091 JF28	263	□鶏鳩鈴□□ [鑑力]	091 JF27
255	[番力] 三□	091 JF28	264	□百六十□	091 JF27
256	四人番	091 JF28	265	五十□□ 日百廿一 呂	091 JF27
257	番	091 JF27	272	□冊八人 □	091 JF27
			273	□廿五 廿□	091 JF27
			274	□月假	091 JF27
			266	□四人	091 JF28
			267	六日参	091 JF28
			268	□百八十四人	091 JF28
			269	□十六人	091 JF28
			270	五人□	091 JF28
			271	□人 内侍□	091 JF27

275 □ 錢
□ 鶴

091 JF27

279 □ 不上

091 JF27

283 人侍 □ □

091 JF28

276 三箇

091 JF27

280 不仕

091 JF28

284 過期十

091 JF28

277 [堤カ]
□ 豊

091 JF27

281 □ 中 才

091 JF28

285 右人 □

091 JF28

278 日廿 [三カ]
□

091 JF27

282 廿八 [日カ]
□ 真昨

091 JF28

286 察

091 JF28

SK一九二〇三(6AAF区)

287 山背国

289 郡 □ □
摂津国

091 IH28

・夜 □ □

「人」 □ □

(36)・23・3 011 IH28

290 種更

091 IH28

288 □ 黒前

・ □ [乃カ]
□ □

□ □ 「□」 □

(43)・24・3 019 IH28

釈文補訂

平二一〇七六

・越前国四沼郡忌浪郷戸主四沼臣

・人□万呂戸口大□人□小足五斗

〔豆〕

(197)・19・2 051

平二一〇八三

〔坊カ〕拳銃十六隻 長三寸半 牒□六隻 長四寸

・北□所進 □尻塞卅四枚 〔鑲二隻〕

・位并尻塞四枚 本受鉄卅三斤十兩 損十一斤十兩

合卅二斤 神龜六年三月十三日足嶋

〔了〕

303・49・4 011

平二一一七七

・備前国児嶋郡小豆郷

・戸主間人連麻呂戸口間人連小人

調三斗

127・25・7 032

・越前国坂井郡荒墓郷戸主□□

□俵

(188)・25・6 051

平二一五三七

・能登国能登郡鹿嶋郷望理里調熬海鼠六□

・天平四年四月十七日

228・(18)・7 031

平二一二七七六

・志麻国英虞郡船越郷 戸主大伴部□□〔氏カ〕
海松六斤

・志麻国英虞郡船越郷 戸主□直在在□□□□小足
〔證カ〕〔戸口同部カ〕
御調熬海鼠八斤十□□

255・38・7 031

平二一二七八三

・二筑麻醬□ 御贄三□六升 〔斗カ〕

・員五十四隻 □ □

181・28・3 032

(醬のあとの□は魚偏の文字。)

平二一一一九〇

平四一三七九五

・ 去上從八位下村合米守公麻呂年五十四
河内国志紀郡

|| 「上日二百十船稻」

— (横線) 292・30・10 015

平六一八四九八

・ 式部省召 書生佐為宿祢諸麻□

・ 十二月廿八日大録 (183)・35・3 019

平六一九〇六七

・ 少初位下大泉史万呂錢五百文

・ 〇 神龜五年九月廿八日
「勘尾張小塞真国」 159・29・4 011

京一一二〇四

□□四籠〔又鹿卅籠カ〕
□□角□塩□□

(240)・(13)・(3) 081

京二一一二七五

・ 美濃国煮塩年魚三斗

・ 靈龜二年十月廿二日 124・18・3 032

京一一一七七

・ 美濃国 〔煮塩カ〕
□□

・ 〔亀カ〕
□□ (77)・19・1 039

京三一四九八一

・ 天平八年七月廿一日自内
退出貫簀一枚

・ 〇 自内退出 70・23・5 011

城 23 | 17 上 (158)

・ 謹牒 厨務所 本請二升許

・ 右為菓分之 天平元年八月十八日 将曹若麻侶
大國

207・29・3 011

城 36 | 15 下

・ 進上
大枕

・ 天平十八年九月 日

266・(22)・3 019

城 30 | 17 中 (422)

月 美濃国司 正

091

京 三 | 四 五 三 三

「屋 屋屋屋進進進」羹櫃
守人足

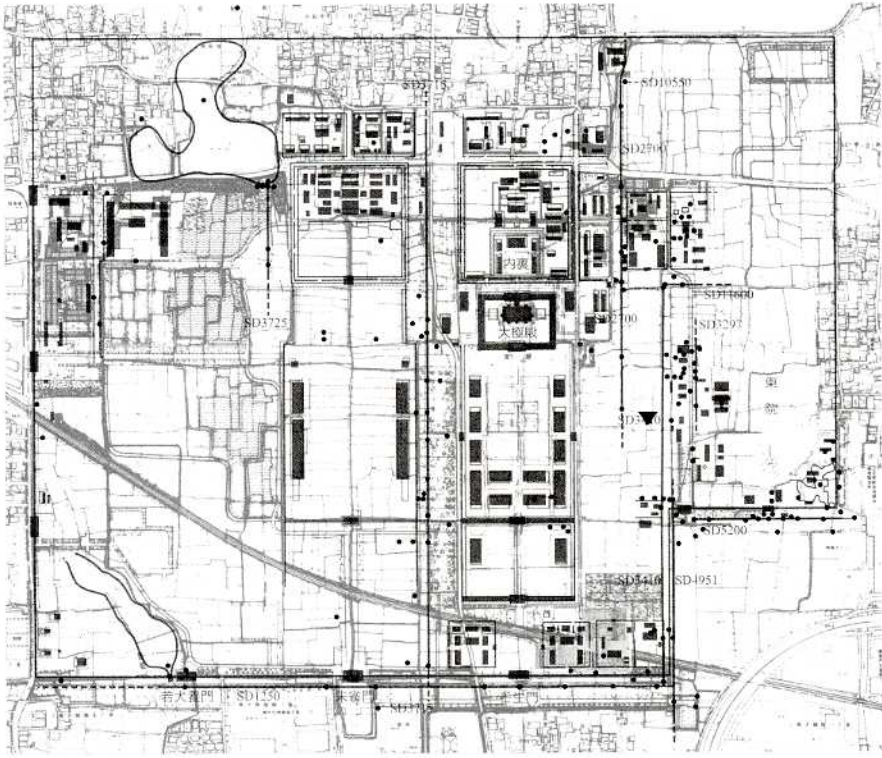
・ 越田瓦屋進上借子四人 葭屋酒人

物部古万呂 氷櫃

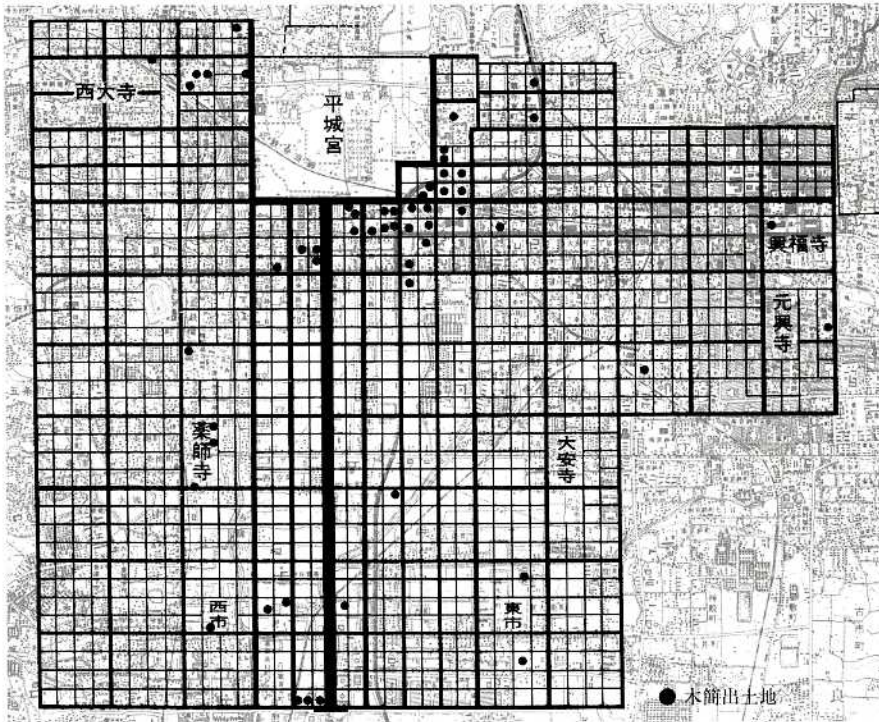
・ 「物」 天平八年七月六日 取子一点進上

出雲熊 「物部 物部郡屋」垂水真鷹 右 「内椋馬甘

369・(51)・10 081



平城宮木簡出土地点図 ● 木簡出土地
▼ 本号掲載木簡出土地



平城京木簡出土地点図 ● 木簡出土地

二〇一〇年十一月二十五日印刷

二〇一〇年十一月三〇日発行

平城宮発掘調査出土木簡概報（四十）

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構

奈良文化財研究所

〒六三〇―八五七七

奈良市二条町二―九―一

TEL 〇七四二―三三〇―六八三七

FAX 〇七四二―三三〇―六八三〇